

## 若鮎倶楽部 第43回例会 石川県視察研修(金沢市・輪島市・七尾市)

初日は、1625年創業の金沢市で最も歴史ある酒蔵、株式会社福光屋を訪問。酒蔵の歴史や震災当時の金沢市内の状況に加え、酒蔵が全壊した能登町の鶴野酒造店との共同醸造という具体的な支援の取り組みについて説明を受けました。被災地の事業継続を支えるには地域内での迅速かつ具体的な「産業連携」が重要な鍵となり、単なる資金援助ではなく、技術や生産基盤を共有する支援モデルの有効性を肌で感じることができました。

2日目は輪島塗会館(輪島市)にて、伝統産業が直面する現状について伺いました。建物の再建だけで完了するわけではなく、「技術・文化の継承」という長期かつ複合的な課題であり、若手の育成や販路確保など、時間軸を持った継続的なサポートが必要不可欠であると強く感じました。午後は、七尾市の和倉温泉へ移動。ホテル海望にて観光インフラ再建の現状を視察。営業再開に向けたロードマップや、ライフラインの復旧状況、人手不足といった現状の課題について詳細な説明を受け、地域経済回復の中核となる観光業の早期再開には集中的な支援と後押しが急務であると実感しました。

2日間の視察研修を通じ、復興についての現状は、まだまだ手付かずで厳しい実情が続いており、単なる瓦礫の撤去や家屋の修繕に留まらず、「産業・文化の再建」「後継者育成」「観光インフラの再生」といった複合的な課題が絡み合い、長期化が避けられない状況にあることを深く認識しました。

同時に、被災地の方々が厳しい現実のなかで力強く、前向きに挑む姿勢も肌で感じることができ、我々にとって大変有意義な時間となりました。この視察で得た学びを糧とし、BCP改善の視点をも踏まえ、日常業務に取り組んでまいります。

